

私たち抜きに  
私たちのことを  
決めるな!



# しょうがい者が あたりまえに 生きられる社会へ

Nothing about us  
without us!



みやぎアピール大行動実行委員会

# News

発行／みやぎアピール大行動実行委員会事務局  
メール：appeal318@hotmail.co.jp

2023.9.8. FRI No.4



自信と誇りを胸に17回目の街へ!

# しょうがい者があたりまえに生きられる社会を実現するために みやぎアピール大行動2023 集会120人！デモ行進100人！

9/3（日）障害者への偏見や差別の解消を訴える「みやぎアピール大行動2023」が開かれ約120人が参加。集会会場となったせんだいメディアテークでは木村英子参議院議員を迎え<しょうがい者があたりまえに生きられる社会を実現するために>テーマに講演、「健常者の理解がないと障害者が生きていくのは難しい」などと訴えました。

集会後、約100人が「障害者権利条約を守れ」などプラカードを掲げ、JR仙台駅前まで行進した。

## しょうがい者があたりまえに生きられる社会へ みやぎアピール大行動2023 アピール

「あたりまえに生きる」「自分らしく生きる」という言葉には、穏やかでとても積極的な響きがある。誰もがそうありたいと願うだろう。

しかし、しょうがい者やマイノリティーにとってそれはとても難しい。多くの生きにくさや障壁を一つひとつ破っていかなければ実現できないからだ。差別や偏見、無理解のほか、設備や制度の不備などである。

こうした生きにくさや障壁をなくしていくための闘いはいたるところで続けられてきた。時に悔しさや怒りを力に変えて、動かぬ体を張って。「私たちの声を、思いを聞け」「私たち抜きに私たちのことを決めるな」と。同じ地域、隣近所でもともに生活することを求め続けてきたのである。

こうした声によって、障害者権利条約や様々な法律、制度として形になりつつある。

とはいえ相談支援や介護制度といった地域生活を支える仕組みも「全国一律」という掛け声とは裏腹に、地域格差が大きい。

本人や家族の意志に反して暮らす場、学ぶ場を分けられている状況も、大きな方針としては転換されつつあるが、国や行政の関連施策からは必要な仕組みを積極的に整えようという意識は感じられない。

2022年8月には障害者権利条約批准後初めての対日審査が行われ、翌月には障害者権利委員会からの総括所見が日本政府に示された。総括所見では、特に障害者の施設入所を減らすための具体的な措置を迅速にとること、また、インクルーシブ教育を具体的に進めることを強い言葉で求めている。これらのことは、長い間私たちが願い続けてきたことでもある。権利条約が当事者の声からできあがったことを忘れてはならない。

「あたりまえに生きる」「自分らしく生きる」という素朴な言葉に込められている意味を今一度かみしめながら「共に生きる社会」を目指して、私たちは声を上げ続ける。

私たちはこれまで、障害者の生活をより困難なものにした障害者自立支援法に反対する運動で連帯してきた。これからもこの場に集まった仲間、集えずとも同じ思いを強く持っている仲間たちとともに、障害の有無やさまざまな立場を越え共に暮らせるみやぎをつくっていこう。そして、本日、みやぎアピール大行動に結集した私たちは、自信と誇りを胸に、17回目の街へ出よう。

2023年9月3日

みやぎアピール大行動2023 参加者一同